

幌延深地層研究センター見学会報告

開催日 : 2019年10月26日(土)~27日(日)

見学先 : 幌延深地層研究センター

行程 : 10/26(土)



17:00 稚内空港 発(空港連絡バス)

17:40 ホテルおかべ汐彩亭 着

10/27(日)

8:20 宿泊施設 発(貸切バス)

9:20 幌延深地層研究センター 着

9:30~11:30 見学

11:40 幌延深地層研究センター 発

12:40 稚内空港 着



参加者数：8名（男性：8名）

年代：60歳～70歳

質疑の内容（意見を含む）：

- ・見学者数：8000千人/年（一般市民、国会議員など見学者を分析し活用した方が良いとの意見）
- ・反対派の見学：原子力に対する反対者、埋設に対する反対者がいる。
（容認者に対し今後も研究開発状況をわかり易く説明し、フォローして行ってはどうかとの意見）
- ・坑内に錆が目立つが予算は十分か：点検を行っており安全上特に問題はない。
（試験・維持費は33億円/年との回答であるが少くないかとの意見）

- ・従業員総数：80名（地元採用は20数名、女子従業員がはつらつと対応する姿が印象に残った）
- ・高放射性廃棄体の発生：ゴルフボール3個/年・人、100万KW級原子炉/3体/年との説明に対し満足した様子でした。
- ・実埋施設の規模は：発生する廃棄体を埋設する坑道は250kmの規模を想定している。（早めに場所選定が必要であるとの印象）
- ・今後の施設活用：研究開発が終了した時点で埋め戻しをする（これだけの施設は、国内になく施設の利活用をするべきとの意見）

企画者の感想

- ・昨日の台風の影響で電車が不通の情報が流れ、早朝より最寄の駅に出向き運行状況を把握し参加者への状況連絡に努め、参加者8名が無事出発することができました。また、羽田発ANA便が30分遅れ、新千歳でのトランジットする時間がなくANA関係者との交渉を踏まえ、稚内行きの出発時間をずらしていただき無事着くことができました。また、稚内駅では岡元部長が雨にもかかわらず出迎え、傘を手配頂き感謝いたします。
見学は「ゆめ地層館」にて幌延深地層研究開発の概要説明を受け、現場は西立坑に案内された。ゆめ地層館では展望塔に案内され雄大な大地を眺めることができ一同満足した様子でした。
また、JAEA案内者、対応者が大変親切に対応していただいたことが印象に残りました。
- ・参加者は地元において建築、土木会社の経営者及び前県議であり、原子力に関する専門家ではないが、高放射性廃棄物の埋設技術開発に加え坑道（特に350m立坑）に関心があった。
特に服装を着替えリフトに乗って降下する際、研究者は大変な場所において研究開発をしていることに対し、感謝しておりました。
深地層研究については写真或いは図面等において説明を受けておりましたが、現地を拝見することで「より理解が深まった」様子が伺え、施設見学を案内する機会を得て良かったと感じました。
- ・特に関心があったのはGL350mにおいて実規模を想定し、模擬体を使用した埋設試験が行われていたことであった。また、質疑において100万キロワット級原子炉1年運転した際、発生する廃棄体は高放射性廃棄体とはいえ、3体程度であることの説明を受け、安心間を覚えた様子であった。
- ・三重大学の学生13名（女子が多数）と同行する機会に恵まれ、原子力開発、高放射性廃棄物埋設技術に関心があり、研究開発の現場見学に参加したとのことから車中において会話が弾みました。

- ・ 今後、岐阜の研究施設が閉鎖され、幌延は有一見学できる施設となることから多くの一般国民に参加していただき、目で見て触っていただくことが理解をする上で重要だと感じました。一般国民は講演会よりも理解が深まると思います。
- ・ 概況説明の一環として、高放射性廃棄体の深地層への埋設について意見を伺う機会があればと思いました。
- ・ 今後の企画として JAEA 東海の ENTORY を見学する計画があり、更に研究開発状況の理解が深まることが期待されます。
- ・ 今回、初めて代表として参加いたしましたが、行程が大変ハードでありました。特に昼食は全て車中弁当であり、地元である稚内についても理解できるような行程が望まれます。

【開催の様子】





以上